

農林水産統計

STATISTICS OF AGRICULTURE, FORESTRY AND FISHERIES

平成19年12月7日公表

平成19年産水陸稲の収穫量（九州）
- 水稲の作況指数は95、収穫量は93万6,200 t -

【調査結果の概要】

- 1 九州における平成19年産水稲は、早期栽培水稲の作柄が日照不足や台風第4号の影響により登熟が抑制されたことに加え、普通栽培水稲においても、北部九州を中心に収穫期以降の高温やウンカの被害による影響等から10a当たり収量は478kg、作況指数は95、収穫量は93万6,200 tとなりました。
- 2 陸稲の収穫量は112 tとなりました。

表1 平成19年産水陸稲の収穫量（九州）

区分	水稲				
	作付面積	10a当たり 収量	10a当たり 平年収量	作況指数	収穫量
	ha	kg	kg		t
九州計	195 800	478	502	95	936 200
福岡	40 000	485	501	97	194 000
佐賀	28 100	504	530	95	141 600
長崎	14 600	472	474	100	68 900
熊本	41 000	513	515	100	210 300
大分	25 900	493	503	98	127 700
宮崎	21 000	372	492	76	78 100
早期 普通	9 150	205	473	43	18 800
鹿児島 普通	11 900	501	507	99	59 600
早期 普通	25 300	457	479	95	115 600
早期 普通	6 290	298	439	68	18 700
普通	19 000	509	492	103	96 700

区分	陸稲			水陸稲計	
	作付面積	10a当たり 収量	収穫量	作付面積	収穫量
	ha	kg	t	ha	t
九州計	67	167	112	195 900	936 300
福岡	-	-	-	40 000	194 000
佐賀	-	-	-	28 100	141 600
長崎	3	195	6	14 600	68 900
熊本	12	158	19	41 000	210 300
大分	0	260	0	25 900	127 700
宮崎	9	213	19	21 000	78 100
鹿児島	43	158	68	25 300	115 700

注： 1）計が内訳と一致しないのは、ラウンド（四捨五入）のためです（以下、各表においても同じです）。
2）「-」印は事実がないものを示します。

この統計調査結果で使用している統計表は、以下のアドレスからデータとしてご利用いただけます。
[http://www.kyushu.maff.go.jp/toukei/ht_all.html]
この統計調査における調査目的、調査対象などの調査仕様は、【調査の仕様】P8に掲載しています。

【解 説】

1 水稻の作柄概況

(1) 早期栽培

(主産県：宮崎・鹿児島)

もみ数は、宮崎、鹿児島ともに平年並みとなりました。

登熟は、出穂期以降の日照不足と台風第4号の影響により宮崎・鹿児島ともに不良となりました。

このことから、宮崎の10a当たり収量は205kgで作況指数43、鹿児島が同298kgで同68となりました。

(2) 普通栽培

もみ数は、日照不足の影響で全般的には、平年並みないしやや少なくなりました。

登熟は、出穂期以降多照で推移したことから、熊本、宮崎及び鹿児島は平年並みないしやや良となり、福岡、佐賀、長崎及び大分では高温や紋枯病、ウンカ等の被害の影響により平年並みないしやや不良となりました。

(3) このことから、九州における水稻の10a当たり収量は478kgで作況指数95となりました。

県別(早期栽培を含む)の10a当たり収量及び作況指数は、福岡が485kgで97、佐賀が504kgで95、長崎が472kgで100、熊本が513kgで100、大分が493kgで98、宮崎が372kgで76、鹿児島が457kgで95となりました。

2 水稻の被害概況

水稻の被害面積は71万7,000ha、被害量は16万2,700tとなり、この内訳は、気象被害が9万4,600t、病害が3万5,600t、虫害が3万100tとなりました。

図 水稻の作柄表示地帯別作況指数

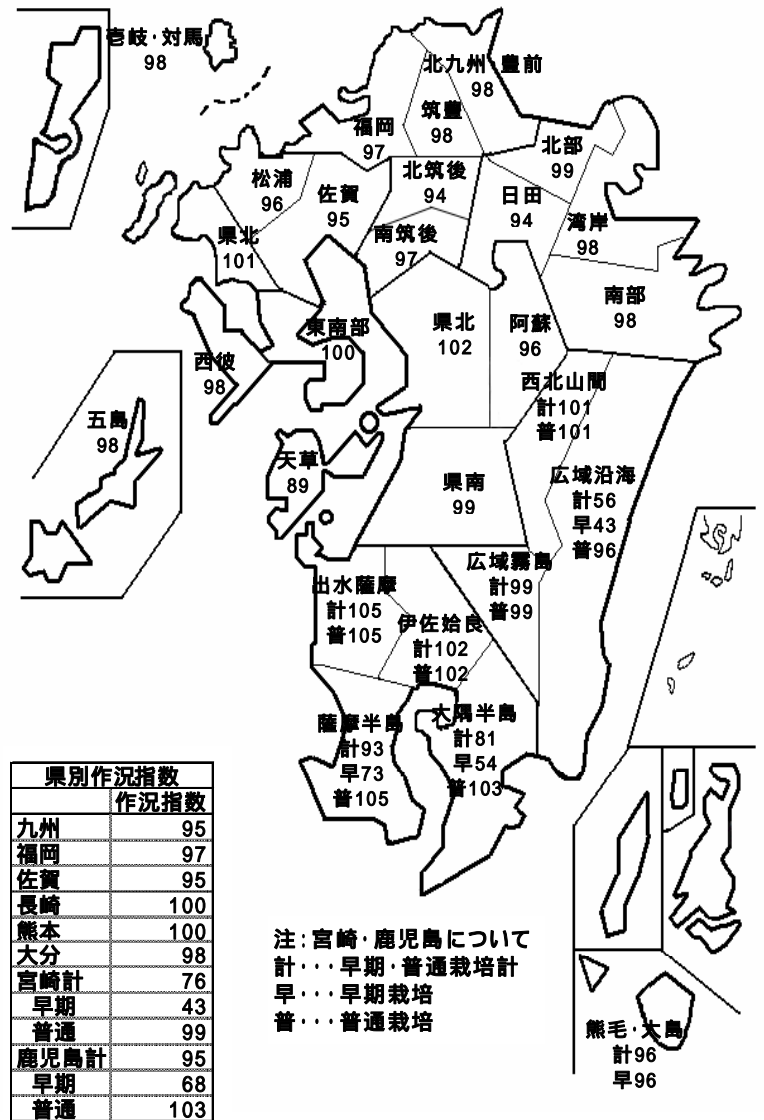


表2 平成19年産水稻の作柄概況（九州）

区 分	刈 取 期					穂 数 の 多 少	一 穂 も み 当 た り の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登 熟 の 良 否
	始 期	最 盛 期	終 期	最盛期の比較					
				平 年 比 較	前 年 比 較				
(平 年 比 較)									
福 岡	月 日	月 日	月 日	1日早	1日早	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み
福 岡	8.27	10. 3	10.21	5日早	2日早	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良
北九州・豊前	8.24	9.17	10.18	3日早	3日早	少ない	やや多い	少ない	やや良
筑 豊	8.20	9.18	10.17	4日早	5日早	やや少ない	やや少ない	やや少ない	やや良
北筑後	9.20	10.12	10.25	並み	並み	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや不良
南筑後	9.24	10.13	10.29	2日遅	4日遅	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良
佐 賀	8.24	10. 5	10.25	4日早	3日早	やや多い	やや少ない	平年並み	やや不良
佐 賀	9.17	10. 6	10.27	4日早	3日早	やや多い	やや少ない	平年並み	やや不良
松 浦	8.17	9.24	10.15	1日早	2日早	やや多い	やや少ない	やや少ない	平年並み
長 崎	8.19	10. 7	10.21	1日早	1日早	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良
西 彼	9.22	9.28	10. 6	並み	並み	やや多い	やや少ない	やや少ない	やや不良
東南部	9.29	10.10	10.22	4日早	3日早	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
県 北	8.18	10.10	10.20	1日遅	1日遅	やや多い	やや多い	多い	やや不良
五 島	8.13	9.23	10. 3	4日早	並み	少ない	やや多い	少ない	やや良
壱岐・対馬	8.22	9.26	10.12	並み	2日早	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良
熊 本	8.17	10. 6	10.23	並み	並み	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み
県 北	10. 2	10.14	10.25	1日遅	並み	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良
阿 蘇	9. 9	9.26	10.16	1日遅	1日遅	少ない	やや多い	少ない	やや良
県 南	9.12	10. 8	10.25	3日早	2日早	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み
天 草	8. 4	8. 9	10.10	1日遅	1日早	やや多い	やや少ない	やや少ない	不良
大 分	9.11	10.11	10.21	4日早	3日早	やや少ない	やや多い	やや少ない	平年並み
北 部	9.11	10.14	10.24	4日早	5日早	やや少ない	やや多い	やや少ない	平年並み
湾 岸	9.11	10.11	10.22	5日早	4日早	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み
南 部	9. 9	10.12	10.19	並み	1日遅	やや少ない	多い	やや多い	やや不良
日 田	9.12	9.28	10.14	6日早	2日早	少ない	多い	少ない	良
宮 崎									
早 期	7.27	8. 1	8. 8	3日遅	2日早	多い	やや少ない	平年並み	不良
広域沿海	7.27	8. 1	8. 8	3日遅	2日早	多い	やや少ない	平年並み	不良
普 通	10. 1	10.11	10.24	3日早	3日早	少ない	平年並み	少ない	やや良
広域沿海	9.24	10. 8	10.19	1日早	1日早	平年並み	やや少ない	やや少ない	平年並み
広域霧島	10. 4	10.14	10.26	3日早	3日早	少ない	平年並み	少ない	良
西北山間	9.25	10. 4	10.18	2日早	3日早	やや少ない	平年並み	少ない	良
鹿 児 島									
早 期	7.29	8. 4	8.14	6日遅	2日遅	多い	少ない	平年並み	不良
薩摩半島	7.28	8. 5	8.11	7日遅	3日遅	やや多い	少ない	やや少ない	平年並み
大隅半島	7.31	8. 6	8.18	6日遅	1日遅	多い	少ない	平年並み	不良
熊毛・大島	7.20	7.23	7.30	4日遅	2日遅	多い	やや少ない	やや多い	不良
普 通	10. 3	10.13	10.25	並み	1日早	平年並み	平年並み	平年並み	やや良
薩摩半島	9.30	10. 8	10.18	2日早	1日早	やや少ない	平年並み	平年並み	良
出水薩摩	10. 4	10.13	10.28	1日早	1日早	やや少ない	多い	やや多い	やや良
伊佐始良	10. 6	10.16	10.29	1日早	2日早	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
大隅半島	9.28	10. 6	10.17	1日早	2日早	やや少ない	やや少ない	やや少ない	良

表3 平成19年産水稻の被害種類別被害面積及び被害量(県別)

区分	総数		気象被害					
			計		うち風水害		うち日照不足	
	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量
	ha	t	ha	t	ha	t	ha	t
九州計	717 000	162 700	320 200	94 600	71 800	37 900	169 100	33 800
福岡	152 700	23 700	78 600	12 000	15 300	458	40 000	6 340
佐賀	85 500	23 300	40 000	15 700	2 990	1 060	15 100	4 770
長崎	58 700	8 940	34 000	4 490	11 700	1 680	14 600	1 160
熊本	143 100	22 100	65 600	11 600	12 800	2 940	40 600	6 620
大分	71 400	16 600	22 400	5 030	2 590	808	13 600	2 990
宮崎	78 600	41 800	34 200	32 100	13 400	27 600	20 600	4 480
鹿児島	127 100	26 200	45 400	13 600	13 000	3 310	24 600	7 410

区分	病害						虫害	
	計		うちいもち病		うち紋枯病		計	
	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量
	ha	t	ha	t	ha	t	ha	t
九州計	186 700	35 600	45 600	10 400	74 200	16 000	192 900	30 100
福岡	31 100	4 480	4 590	703	9 160	1 880	38 800	6 660
佐賀	20 700	3 960	1 840	264	16 200	3 410	24 300	3 420
長崎	8 250	2 050	2 040	419	5 320	1 480	14 900	2 140
熊本	42 300	6 030	7 320	1 230	10 600	1 430	33 900	4 270
大分	24 400	7 220	7 030	2 390	6 830	2 480	23 000	3 830
宮崎	24 500	5 300	9 920	2 530	10 200	2 200	18 600	4 160
鹿児島	35 500	6 500	12 900	2 870	15 900	3 090	39 400	5 600

区分					その他	
	うちウンカ		うちカメムシ		計	
	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量
	ha	t	ha	t	ha	t
九州計	34 900	14 700	19 100	2 620	17 200	2 400
福岡	8 650	3 250	2 970	492	4 230	597
佐賀	3 530	1 830	1 110	51	514	191
長崎	2 170	1 210	1 560	252	1 530	258
熊本	3 540	961	3 200	501	1 280	180
大分	4 000	2 880	775	55	1 570	488
宮崎	6 480	2 180	3 710	720	1 340	220
鹿児島	6 490	2 390	5 810	552	6 760	463

【参考 1】 平成19年産水稻の作柄表示地帯別作況指数（収穫期）

区 分	作況指数	区 分	作況指数
福 岡	97	宮 崎	76
福 岡	97	広域沿海	56
北九州・豊前	98	広域霧島	99
筑 豊	98	西北山間	101
北筑後	94	早 期	43
南筑後	97	広域沿海	43
佐 賀	95	普 通	99
佐 賀	95	広域沿海	96
松 浦	96	広域霧島	99
長 崎	100	西北山間	101
西 彼	98	鹿 児 島	95
東南部	100	薩摩半島	93
県 北	101	出水薩摩	105
五 島	98	伊佐始良	102
杵岐・対馬	98	大隅半島	81
熊 本	100	熊毛・大島	96
県 北	102	早 期	68
阿 蘇	96	薩摩半島	73
県 南	99	大隅半島	54
天 草	89	熊毛・大島	96
大 分	98	普 通	103
北 部	99	薩摩半島	105
湾 岸	98	出水薩摩	105
南 部	98	伊佐始良	102
日 田	94	大隅半島	103

【参考2】 平成19年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況及び10a 当たり収量内訳

この調査における収穫量は、「飯用に供し得る米」として原則として目1.70mmのふるい目を用い選別した玄米の量としています。一方、農家等が選別に用いるふるい目幅は産地、品種等により異なります。

参考までに、ふるい目幅別の重量割合と、10a当たり収量内訳を示すと次のとおりです。

単位 { 重量割合 : %
平均対差 : ポイント
収量内訳 : kg

区分	合計	ふるい目幅					
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
農業地域							
九州							
重量割合	100.0	65.3	23.7	4.8	3.1	1.9	1.2
平均対差		9.6	5.6	1.9	0.9	0.7	0.5
(収量内訳)	(478)	(312)	(425)	(448)	(463)	(472)	(478)
福岡							
重量割合	100.0	65.2	23.8	5.1	3.0	1.6	1.3
平均対差		8.4	4.4	1.8	1.0	0.7	0.5
(収量内訳)	(485)	(316)	(432)	(456)	(471)	(479)	(485)
佐賀							
重量割合	100.0	63.3	24.1	4.7	4.1	2.2	1.6
平均対差		8.6	2.0	2.4	1.6	1.5	1.1
(収量内訳)	(504)	(319)	(440)	(464)	(485)	(496)	(504)
長崎							
重量割合	100.0	63.0	26.6	4.3	3.3	1.7	1.1
平均対差		11.2	3.2	3.0	1.9	1.8	1.3
(収量内訳)	(472)	(297)	(423)	(443)	(459)	(467)	(472)
熊本							
重量割合	100.0	68.0	22.3	4.2	2.6	1.8	1.1
平均対差		12.1	7.0	2.1	1.2	1.0	0.8
(収量内訳)	(513)	(349)	(463)	(485)	(498)	(507)	(513)
大分							
重量割合	100.0	58.9	27.2	6.4	3.7	2.6	1.2
平均対差		5.3	2.2	1.5	0.5	0.8	0.3
(収量内訳)	(493)	(290)	(425)	(456)	(474)	(487)	(493)
宮崎							
重量割合	100.0	68.2	22.3	4.4	2.5	1.5	1.1
平均対差		12.9	9.5	2.0	0.6	0.4	0.4
(収量内訳)	(372)	(254)	(337)	(353)	(362)	(368)	(372)
鹿児島							
重量割合	100.0	68.7	21.2	4.6	2.8	1.7	1.0
平均対差		14.0	9.4	1.8	1.5	0.7	0.6
(収量内訳)	(457)	(314)	(411)	(432)	(445)	(452)	(457)

注：1) 平均対差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均です。

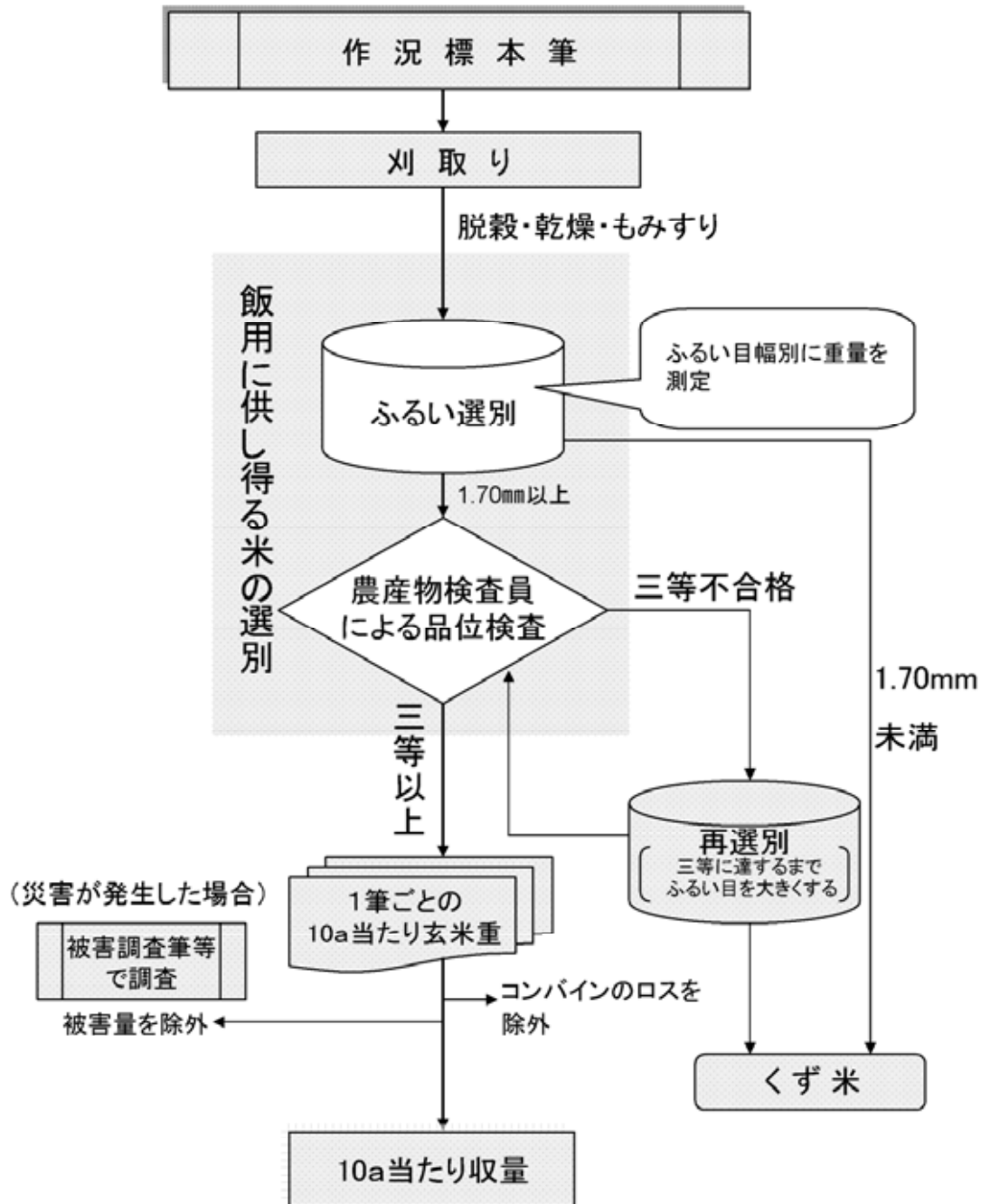
2) (収量内訳)の合計は、10a当たり収量です。

3) 台風等により、未熟粒・被害粒等の混入が多く、農産物検査規格三等に達しない場合は、再選別後の値となっています。

(P7【参考3】参照)

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る米の全量を把握することを目的として、作況標本筆ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程三等以上の品位を有し、かつ、粒厚が1.70mm以上となるように玄米の選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。



【調査の仕様】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び稲調査の中の水陸稲の収穫量調査として実施し水陸稲の作付面積、作柄状況、収穫量を明らかにすることにより、生産対策、技術指導等の農林水産行政推進のための基礎資料とすることを目的としています。

2 調査期間

(1) 作付面積調査

ア 水 稲：7月15日現在

イ 陸 稲：収穫期

(2) 収穫量調査

水陸稲：収穫期

3 調査方法

(1) 作付面積調査

ア 水稲：調査は、標本単位区に対する九州農政局統計・情報センター職員及び統計調査員による実測調査並びに同センター職員による巡回・見積りにより取りまとめました。

イ 陸稲：調査は、関係団体に対する往復郵送調査及び同センター職員による巡回・見積りにより取りまとめました。

(2) 収穫量調査

ア 水稲：調査は、作況標本筆、基準筆及び被害調査筆に対する九州農政局統計・情報センター職員による実測調査及び巡回・見積りにより取りまとめました。

イ 陸稲：調査は、同センター職員による巡回・情報収集により取りまとめました。

4 調査客体数

(1) 作付面積調査

水稲

標本単位区：5,790単位区 巡回・見積り：257市町村

(2) 収穫量調査

水稲

作況標本筆：1,495筆 作況基準筆：151筆 巡回・見積り：257市町村

5 用語の解説

作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率です。

10a当たり平年収量とは、水稲の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。

被害量とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、被害なかりせば収量（その被害が発生しなかったと仮定した場合に取れ得ると見込まれる収量）より減収した量をいいます。

作況標本筆とは、水稲の作柄や被害状況が把握できるように、標本理論に基づいて各地で選定し実測調査を行う1枚のほ場をいいます。

【関連リンク】

九州農政局ホームページ>統計>公表一覧

http://www.kyushu.maff.go.jp/toukei/ht_all.html

九州農政局ホームページアドレス

<http://www.kyushu.maff.go.jp/>

問い合わせ先

本統計調査結果について

連絡先：九州農政局 統計部

生産流通消費統計課 生産統計第1・2係

電話：(代) 096 - 353 - 3561 内線 4753・4754

直通電話： 096 - 353 - 7574

農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局 統計部

統計企画課 企画第2係

電話：(代) 096 - 353 - 3561 内線 4723

直通電話： 096 - 353 - 7556